

令和8年度学校自己評価システムシート（県立飯能高等学校 定時制の課程）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会で自立できる力を育てる定時制高校
--------	-----------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が安心できる居場所づくりと生徒の自主性、自立性、社会性の伸長を目指す 2 基礎・基本の定着と進路指導の充実を目指す 3 保護者、地域や他機関との連携・協働を積極的に進め、開かれた魅力ある学校を目指す 4 教職員の働き方改革に向けて、業務の見直しとICT化を図り、業務改善を目指す
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価				
年 度 目 標				年 度 評 価 (令和 年 月 日 現在)					
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	年度末への課題と改善策	実施日 令和 年 月 日	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>【現状】 小・中学校時代に不登校等を経験し、学校生活でつまずきを経験した生徒が多く在籍している。一方で、SC・SSW、特別支援教育コーディネーター、日本語支援員等の外部人材や関係機関との連携、教員によるきめ細かな指導・支援により、生徒の出席状況の改善や、安心して学習・生活できる環境づくりが進んでいる。</p> <p>【課題】 多様な背景や困難を抱える生徒が在籍する中で、生徒にとっての「安心できる居場所」を引き続き確保するとともに、将来の社会的自立を見据え、自主性・自立性・社会性をより一層育成していく必要がある。</p>	生徒が安心して学校生活を送りながら、自主性・自立性・社会性を身に付けられる環境が整備されている。	<ol style="list-style-type: none"> ① 教員間で生徒情報を密に共有するとともに、外部人材や関係機関と連携し、継続的できめ細かな指導・支援を行う。 ② 学校行事、特別活動、総合的な探究の時間等において、生徒が主体的に役割を果たす場面を意図的に設ける。 ③ 社会的自立に向け、「報告・連絡・相談」を重視した計画的かつ継続的な指導を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 外部人材や関係機関と連携した支援の実施状況 ② 学校行事や特別活動、総合的な探究の時間等における生徒の主体的な参加状況 ③ 生徒による欠席・遅刻時の連絡状況 					
2	<p>【現状】 学習面で苦手意識を持つ生徒が多く在籍する中、授業の工夫や学習サポーターの活用により、生徒の授業満足度は向上している。また、個別の指導・支援や就職支援アドバイザーとの連携により、進路希望の実現に向けた取組が成果を上げている。</p> <p>【課題】 生徒間の学習理解度の差が大きいことから、一人ひとりに応じた指導のさらなる充実が求められる。また、生徒が自らの学びと将来像を結び付けて考えられるよう、体系的な進路指導を一層強化する必要がある。</p>	生徒一人ひとりの学習理解度に応じた指導が行われ、主体的に進路を考える力が育成されている。	<ol style="list-style-type: none"> ① 教員間の相互授業参観の機会を増やすなどして授業力の向上を図る。 ② 学習サポーターを計画的かつ効果的に活用し、生徒の基礎学力の定着を図る。 ③ 地域企業や関係機関との連携をさらに強化し、社会的自立に向けた個別の指導と支援を充実させるとともに、就職支援アドバイザーと連携して、生徒の進路希望を実現する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業アンケートによる生徒の満足度 ② 学習サポーターの活用状況および欠点を抱える生徒の状況 ③ 地域企業や関係機関との連携状況および生徒の希望進路実現率 					
3	<p>【現状】 学校説明会や中学校訪問、ホームページを通じて教育活動の発信を行い、保護者や中学校関係者への情報提供に努めている。また、PTA活動等を通じて、保護者との連携強化を図っている。</p> <p>【課題】 本校の定時制教育の意義や特色、生徒の成長の様子が、地域や中学校関係者に十分伝わっているとは言いがたい。今後は、情報発信の量だけでなく、内容や伝え方を工夫し、学校の魅力をより効果的に発信する必要がある。</p>	保護者・地域・関係機関との連携が進み、学校の教育活動が適切に理解・評価されている。	<ol style="list-style-type: none"> ① 公開授業や学校行事への保護者参加を促進し、教育活動への理解を深める。 ② 学校ホームページにおけるレイアウトの工夫および記事内容の充実を図り、情報発信の質を向上させる。 ③ 中学校への訪問や学校説明会の時期や内容等をさらに工夫し、本校教育の特色や成果を発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 公開授業や学校行事への保護者参加状況 ② 学校ホームページにおけるレイアウトや記事内容の工夫・改善の状況 ③ 中学校への訪問や学校説明会等の実施状況 					
4	<p>【現状】 外部人材や関係機関との連携、ICTを活用した情報共有により、業務の効率化と教職員の負担軽減が一定程度進んでいる。</p> <p>【課題】 教育課題が複雑化・多様化する中で、業務改善の取組を個人の努力に依存せず、組織的・継続的な仕組みとして定着させる必要がある。また、ICTや生成AIの活用については、教育活動の質を維持・向上させる観点から、効果的な運用をさらに進めていく必要がある。</p>	外部人材やICTを活用し、教職員の負担軽減と教育活動の充実が両立している。	<ol style="list-style-type: none"> ① 外部人材や関係機関との連携を強化し、教職員の心理的な負担軽減を図る。 ② 資料共有フォルダを整備するとともにチャットツールの活用をさらに進め、業務の効率化を促進する。 ③ 教員のICT活用能力に応じた研修機会を提供し、個々の業務改善を促進する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 外部人材や関係機関との連携状況 ② 資料共有フォルダの整備状況およびチャットツールの活用状況 ③ ICTに関する教員研修の実施状況 					